

2003

stereo

JUNE

6

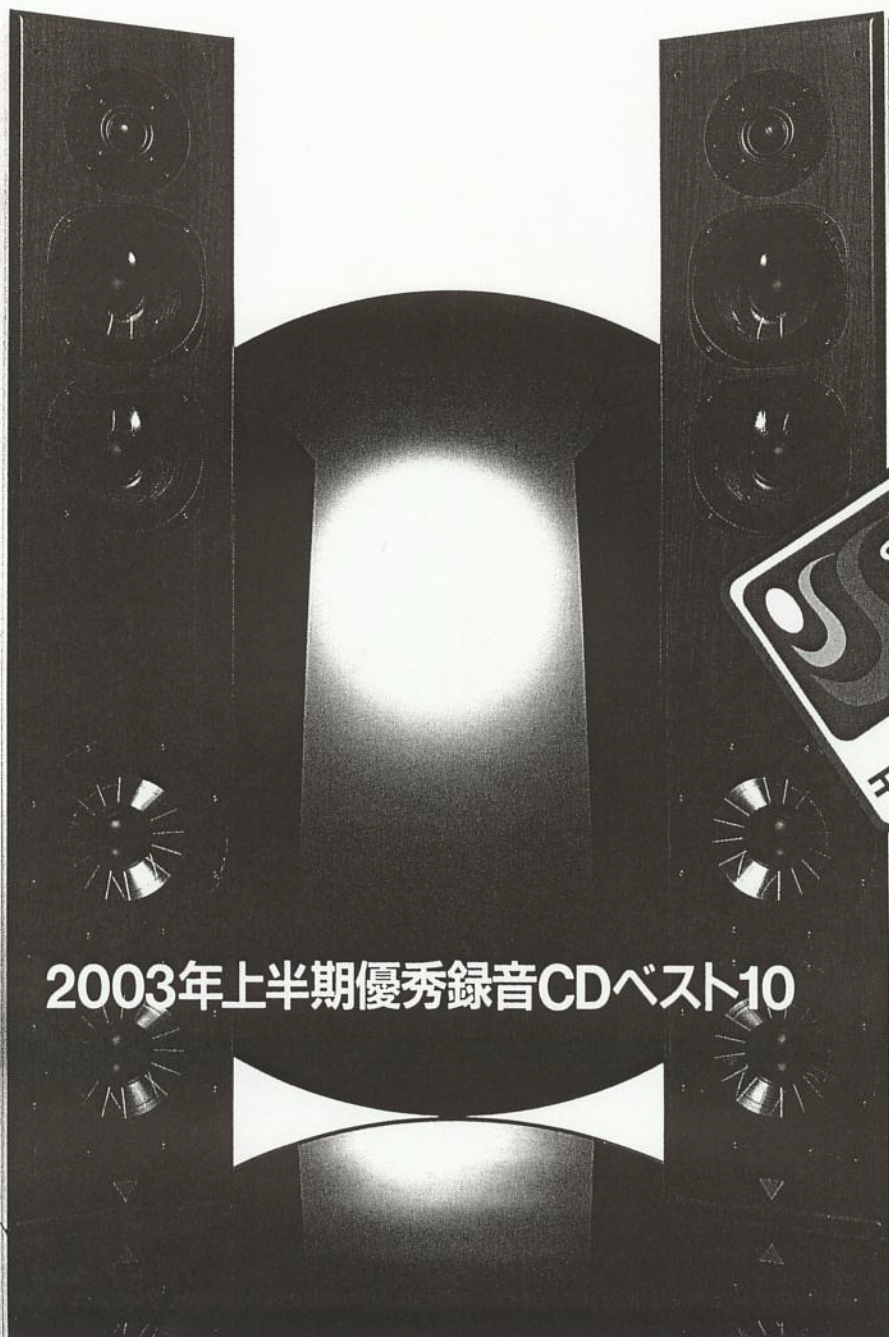
40周年記念特別増大号

【特別企画】40の音、40の主張

実力派スピーカーを活かすコンポーネント組合せ撰集

【特集】ベスト・バイ・コンポ“プライベートツ”

13人の筆者が個人的「ベスト・バイ」モデルを選出



2003年上半期優秀録音CDベスト10



超
高
域
再
生
を
シ
ン
プ
ル
&
タ
イ
レ
ク
に
体
現
す
る

marantz SA8260
FLYING MOLE DAD-M1

Victor SX-LC33 -p32



2
で
も
5
1
で
も
真
価
を
発
揮
さ
せ
た
い
御
仁
へ

Victor SX-DW7
DENON DVD-2900
DENON AVC-2870

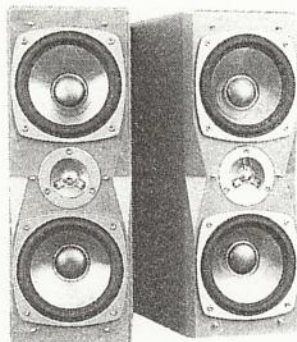
仮想同軸形状を活かし サラウンド再生を 強烈に意識する

■斎藤宏嗣

近年、ビクターのスピーカーシステムは、独自のメタル・オブリコーンのユニットを中心に据えた高品位モデルを次々に開発している。オブリコーンはボイス

コイル軸をユニットの中心から外す形状で、コーン上の有害振動や干渉および指向特性の改善を図るものだ。14・5cmウーファアのコーン素材には音の伝搬速度に優れるアルミ素材が採用され、オブリ構造で高域の有害なピークを抑制している。トウィーターは純金プレーティンク・ダイアフラムの1・9cmドームタイプで、30kHzを越える超高域にレンジを伸ばしている。

このユニットによる2ウェイタイプのベシックモデルがSX-L33で、小型形状ながら広帯域でバーフェクトにフラットなりファレンスのな再生音である。SX-LC33は、トウィーターを2個のウーファアが挟み込むオブリ・オムニアレイ配置（ツインウーファ



ビクター SX-LC33

●型式：バスレフ型(防磁) ●使用ユニット：[W] 14.5cm×2 [T] 19mm
●出力音圧レベル：89dB ●再生周波数帯域：52Hz~80kHz ●クロスオーバー周波数：4kHz ●最大許容入力：120W ●公称インピーダンス：6Ω ●入力端子：バナナプラグ対応 ●大きさ：150W×416H×293Dmm ●重さ：8.0kg

一部の互いのボイスコイル軸を最も近い位置で向かい合わせ、その間にトウィーターを配し、ユニット同士の音が干渉しないように考慮した配置を採用。低域方向が一段とスケールアップしており、25cm 3ウェイのスピーカーに匹敵する。

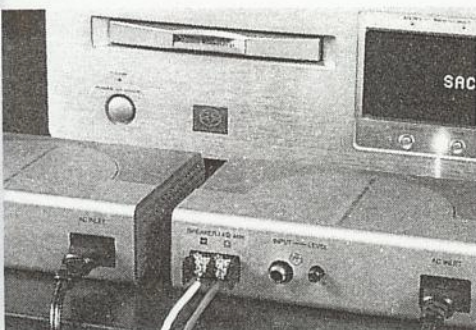
サラウンドへの発展性は随一の超シンプルな2chシステム

SX-L33のエンクロージャ・サイズは150W×416H×293Dmmと小型で、そのユニット構成から横置きで5・1チャンネルでの前方中央チャンネル用を兼用して開発されたモデルだ。縦置きの2ch再生でも優れた性能を発揮する。そこで、将来的にはサラ

SA: マランツ SA8260 ¥99,800
PA: フライングモール DAD-M1 ¥40,000×2
SP: ビクター SX-LC33 ¥40,000×2
TOTAL: ¥259,800

Best Matching

サウンド再生への発展も見据えての、シンプルなステレオシステムを計画した。アンプには、手に乗るサイズでありながら定格出力160W(4Ω)のモノラル・デジタル・パワーアンプのフライングモール社DAD-M1を2台採用した。プレーヤーは、マランツのCD/SACDコンパチブル・タイプのSA8260で、DAD-M1を増設していけば、マルチチャンネル再生への発展可能な構成だ。



変換効率は85%に達し、手のひらサイズで160W(4Ω)の大出力を実現するのが、フライングモール社(☎053-416-1720)のデジタルアンプDAD-M1である。入力ボリューム付きのため、プリアンプ・レス・システム、サラウンド再生用、マルチアンプ・システムなど、多様なニーズに応える



ロールを装備しているので、リアアンプ・レスとしたが、左右のレベル調整操作はツマミは小さくやや不便。将来的に、マルチチャンネル・リアアンプの追加を考えるのが妥当だろう。

さて、SXL33には専用のスタンドSTL3Jが別売されているが、今回は標準のアコースティック・リバイブのYSS-60にソルボセインの小片を介して設置した。再生音の総合的な印象

は、ゆったりと両翼にレンジを拡げ、低域から中低域にアコースティックなふくらみと高域の明るい粒立ちを対比させた、軽いメリハリ調である。チェロ・カールテットやチェロとコントラバスのデュオなど、深々とした低域の量感と音階の明瞭さが特徴で、難度の高い楽器間の表現分けも鮮やかに決めた。弦楽アンサンブルやオリジナル楽器のバイオリン協奏曲など、大編成でも分離と空間での溶け

合いの関係が自然である。総合的なスケールは、狙いに違わず25cm/3ウェイ級のスピーカーシステムと本格的な中級アンプを組み合わせたレベルに到達、高品位で音色・音質も申し分ないシステムとなった。難点は、ポリウレムの設定だが、中央音像を含むソースであれば容易だ。

品位向上著しい中級機で組む 音楽派向けサラウンド・システム

オーディオ再生で充分満足できる5・0および5・1chシステムを構築すべく、装置をプランした。プレーヤーには、近年注目を集めるCD/SACD/DVD/Dオーディオ/DVDビデオとマルチに対応するユニバーサルタイプを選択した。このタイプのプレーヤーは高級モデルでスタート、その後、中級から普及タイプへのコストダウンされたが、最近では中級モデルの品位向上が顕著である。

その代表的モデルにデノンの新製品DVD-2900があり、特にSACDの復調系に採用されているチップが好バランスで高品位再生を演出する。

一部のAVアンプの品位向上も近年の話題であり、オーディオでのマルチチャンネル再生にも充分に対応するものだ。今回の組み合わせには、プレーヤーと同様、中級の最新モデルであるデノンのAVC-2870を採用した。上位のフラッグシップ・モデルで培われたマルチ・アンプに関する多くの技術的なノウハウに最先端のチップをリンクした同社の集大成モデルと紹介できる。

なお、オーディオのマルチチャンネル・ソースには5・0chが多いが、5・1chも多数あり、SXL33を5台に加えて同じくビクターのサブウーファ1、SXD7を併用することにした。もちろん、DVDビデオの各種サラウンド音声にも対応可能なシステムとなる。

マルチチャンネルの再生音の総合的な印象は、スッキリと両翼にレンジが拡がるフラットバランスで、帯域内に細やかな音の粒子が一杯に詰め込まれた高密度感が特徴だ。弦楽アンサンブルでは豊かな音場感があふれ、程よい遠近感でステージが映しだされ、自然なフォーカスでアンサンブルの各音像が定位する。チェロとコントラバスのデュオでは、小さな教会の空間と生々しい前方音像が対比してリアル。オリジナル楽器の優雅な音色と深々とした空間と描写も圧巻。



DVD-2900はデジタル出力・映像出力・パネル表示をオフにし、音声のみ出力する「ピュアダイレクト」機能を装備



サブウーファーには同じくビクターのSXD7をチョイス。密閉キャビネットに30cmウーファーをマウント、POWER MOS-FETを採用した600WのPWMクラスD（デジタル）パワーアンプと、速度帰還型MFB（Motional Feed Back）を組み合わせての強制ドライブで、超低域をハイスピードに鳴らすのが特徴だ

- Best Matching**
- S&D: デノン DVD-2900 ¥135,000
 - AV: デノン AVC-2870 ¥100,000
 - SP: ビクター SX-LC33 ¥40,000×5
 - SW: ビクター SX-DW7 ¥135,000
 - TOTAL: ¥570,000

BEST BUY COMPO.
Private

パワーアンプ
50万円未満

- 石田善之
- アキュフェーズ P370
 - ラックスマン M7f
 - ミュージカルフィデリティ A3.2CR POWER

P1370、M7fは高い実力と人気から当然の選択だが、ミュージカルフィデリティのA3.2CRは、同シリーズにアンプがあるし、全く同じような面構えのプリ・メインアンプもあり、しかも価格が同じである。このパワーアンプはLR独立したトイダルトランスからなる完全なモノラルコンストラクションで、20万円を切る価格ながら実力の高さが評価のポイントである。音の持ち味は重心を下げて比較的ゆったりとした雄大なサウンドで、このあたりが明快かつ繊細で表情の豊かなE1370や、重厚感あふれる中に彫りの深さや力強さがあるM7fと一味異なっている。もつとつと忘れられないのはテクニクスのSE-A3000Ver.3.0の存在である。

- 神崎一雄
- ジョブ JOB300
 - アキュフェーズ P370
 - テクニクス SE-A3000Ver.3.0

些かまとまりのない選択をしてしまったような気がしなくもないが、それは可愛いと言えるほど小さいモノプロックのスイス製パワーアンプJOB300が混入しているからだろう。確かにJOB300と他の2機種を選ぶ切り口は違っている。P370とい、SE-A3000Ver.3.0とい、すでに評価の定まった安定感の高い製品である。両者とも今日的なワイドレンジ感と透明感の高さ、そして安定感の高さがある。しかし、JOB300が私を引きつけたのは、小さいことからくる移動性の良さ、そして飾り気のないシンプルに徹した外観である。私の中のイメージは可搬モニター用だ。使いやすいつレオのJOB500もある。

- 斎藤宏嗣
- アキュフェーズ P370
 - ラックスマン M7f
 - フライングモール DAD-M1

伝統的なチャンネル・ステレオ方式のパワーアンプも依然として健在であるが、この価格帯には、近い将来、新しい形態のデジタル方式のモデルの台頭も十分に予測される。アキュフェーズのパワーアンプにはモノラルとステレオ構成があり、再生時のステレオ感が微妙に異なるが、ステレオ系代表モデルのP1370はオーディオブック系なパターンとデュアンプが特徴。ラックスマンのM7fはシリーズの特徴となる基本特性を踏まえた豊かな音楽性を感じさせるアコースティックなサウンドが人気の秘密。浜松のベンチャー企業、フライングモールのモノラル・デジタルアンプのDAD-M1は、小型だが驚くべきパフォーマンスを示す魅力の新鋭音源。

- 上杉佳郎
- アキュフェーズ A20V
 - テクニクス SE-A1010Ver.3.0
 - マランツ SM17SA ver.2

「アキュフェーズA120」パワー面を度外視し、あくまでハイタオリティに向かって全力投球して誕生したパワーアンプである。ビュアクラス・オペレーションならではの瑞々しいサウンドが魅力的だ。「テクニクスSE-A1010Ver.3.0」10万円を切るという超ロープライス級のパワーアンプなので、低インピーダンスのスピーカーとの組み合わせは避けたいが、その美しい音にはただただ驚かされる。刺激感全くなのPM17SA ver.2のパワーアンプ部を独立させたモデル。B&Wのスピーカーシステムを用いて音造りしているから、ドライブ能力が高い。躍動感に富む音。

- 江川三郎
- アキュフェーズ P370
 - アキュフェーズ A20V
 - ラックスマン M7f

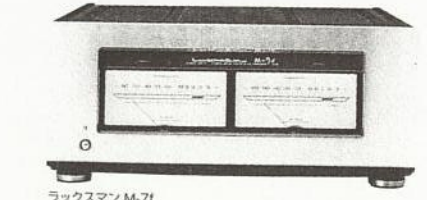
パワー増幅段に私が望んでいるのは、自分の部屋に必要な音量までだ。パワーの余裕は不要。それも自分の好みの音楽の傾向をふまえての話である。だから自分の部屋の汽車を走らせた、巨大な太鼓を打ち鳴らす快感はさし控えるようにしている。自分が快適になれば、反比例して家族や近隣との折角が悪くなるから。そうしたことから、伝統的なシンプルながらA級増幅は、例えパワーが小さくても私にとっては神のゆくアンプとさえ思っている。同時に、より音楽を喜ぶ場合はスピーカーシステムの音質を自分の好みで決める前に、能率の高い製品の中から選ぶようにしている。それでも音量が足りなければ、ニアフィールド・リスニングにする。

- 貝山知弘
- アキュフェーズ P370
 - ラックスマン M7f
 - パイオニア MAX10

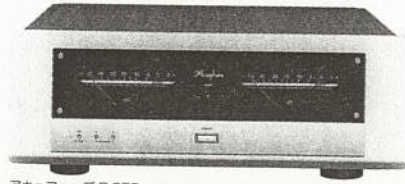
電源トランスでも、筐体でも、とかく物量がものをいうパワーアンプの世界では、この価格帯の中で優れた製品を造ることすらも難しい作業だと思ふ。ここで取り上げた3機種は、いずれもその難関を突破した秀作だが、突破の仕方はそれぞれ違う。アキュフェーズP1370は、出力段の低インピーダンス化を回ってスピーカーに対するドライブ能力を向上させるというオーディオブック系なアプローチで成功し、高級機で培った技術が、中級機に活かされた好例である。ラックスマンM7fはハイP比の大出力アンプ。音楽のダイナミクスな躍動感を具現し表出する。パイオニアMAX10は、マルチアンプ派に恰好の製品で2chでも4chでも使用できる。

- 金子英男
- アキュフェーズ P370
 - ラックスマン M7f
 - テクニクス SE-A3000Ver.3.0

このランクのパワーアンプとして3機種ともに30万円台より選出する。アキュフェーズのP370は、この価格は同社としてはおおげしいが、音質は満足いくもので、帯域幅も十分取れていて質感のバランスも整っている。ラックスマンのM7fは同社の中では下のクラスになるが、特徴的なパターンを嫌みなく受け抑えていて、明るい中にゆとりを持たせた特色がある。価格を抑えてのセパレート型の構成には向いている製品である。テクニクスのSE-A3000Ver.3.0は、外観のみならず明るさのある艶やかな構成になっている。濁りも少なく快活さのある開放的な音で、すべてが外向きに処理される感じで、積極的な良さがある。



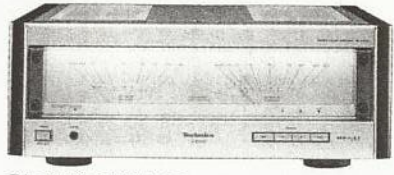
ラックスマン M-7f



アキュフェーズ P-370



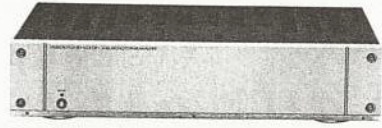
マランツ SM-17SA ver.2



テクニクス SE-A3000Ver.3.0



ブライストン 4B-SST



ミュージカルフィデリティ A3.2CR POWER

製品名	価格	石田	上杉	江川	貝山	金子	神崎	斎藤	菅野	須藤	福田	藤岡	三井	山之内
アキュフェーズ P-370	¥360,000	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ラックスマン M-7f	¥390,000	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
テクニクス SE-A3000Ver.3.0	¥OPEN				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
テクニクス SE-A1010Ver.3.0	¥OPEN		●											
マランツ SM-17SA ver.2	¥100,000		●											
ミュージカルフィデリティ A3.2CR POWER	¥199,800	●												
アキュフェーズ A-20V	¥330,000		●											
フライングモール DAD-M1	¥80,000 pair							●						
ブライストン 4B-SST	¥418,000													●
ジョブ JOB300	¥448,000 pair						●							
パイオニア M-AX10	¥450,000				●									